

# 結

絞首台の鐘が、からころ鳴っています。

「……馬鹿者め」

疑いあいが発生した時点で、きっと疑いが  
禍根を残さない未来などなかったのです。

人間たちは傷付けあって、得るものは何一つありませんでした。  
あなたはこの事件にかかわったすべてを憐れみます。

ただ巻き込まれた司祭／マキシア。  
不意に隣人が肉だと知ってしまった行商／シュクル。  
愛するものを知らず踏み込ませてしまった魔女／リタ。  
人を望んだのに、獣へと踏み込もうとした新顔／ラウル。  
そして……。

「……お前も、望んだ結末はこんなものではなかったろうに」

あの男の望みごと、村はもう終わるのでしょう。  
それでも、あなたはこの場所にとどまります。  
人に愛しさを見た、この場所の死を看取るために。

あなたは壊れてしまった日常に、  
いつもの通りの顔をして帰っていくのでした。

+++++

END-D-4：『負って往くもの』